ミノルタ ベクティス ウェザーマチック

J 使用説明書

ご使用前によくお読みください

正しく安全にお使いいただくために

この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

 警告　この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

絵表示の例 △記号は、注意を促す内容があることを告げるものです(左図の場合は発熱注意)。

 警告

- **指定された電池以外は使わないでください。**
- **電池の極性(+/−)を逆に入れないでください。**

- **電池を火中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。**

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。

他の金属と接触すると発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

⚠警告

電池や幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意を払ってください。事故の恐れがあります。

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。
修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。
内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。
放置すると火災や火傷の原因となります。

目次

撮影の前に

撮影しましょう

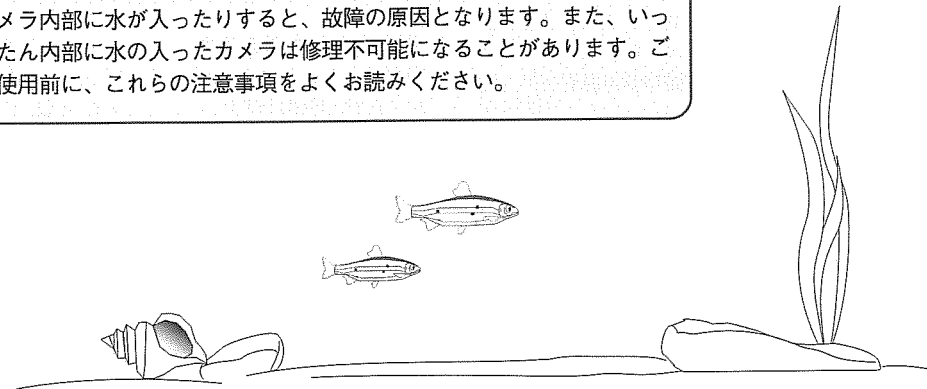
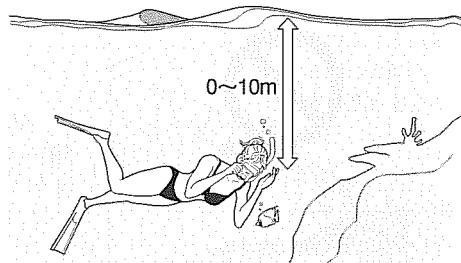
フラッシュ撮影

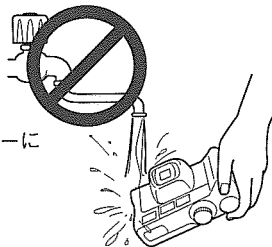
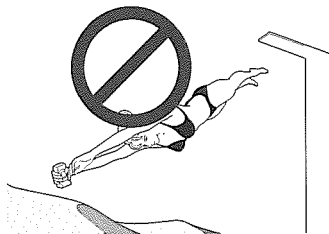
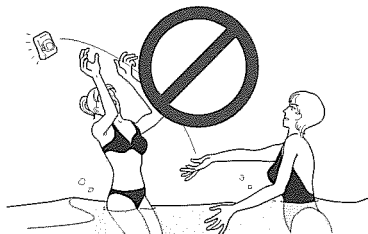
最後のコマを撮影したら

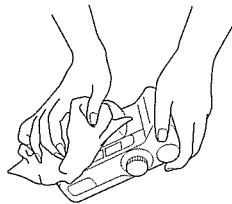
こんなこともできます

付録

カメラの防水について

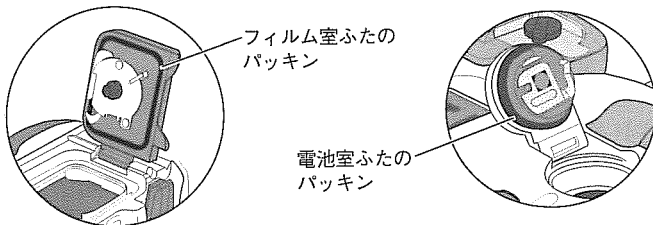
このカメラは防水設計になっていて、水深10mまでの水中撮影が可能です(当社試験条件)。ただし、取り扱い上のちょっとした不注意でカメラ内部に水が入ったりすると、故障の原因となります。また、いったん内部に水の入ったカメラは修理不可能になることがあります。ご使用前に、これらの注意事項をよくお読みください。

防水性能について

●水深10m以上のところで
使用しないでください。

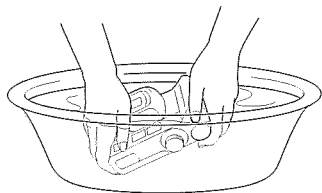
●カメラを流水やシャワーに
当てないでください。

●カメラを投げたり、落としたり、カメラを持ったまま水中に飛び込んだりしないでください。

●日焼け止めやサンオイルのついた手で、カメラに直接触らないでください。また、カメラについた場合はすみやかにふき取ってください。まれにカメラのプラスチック部分を破損したり、防水性能を落としたりする恐れがあります。

カメラの内部は防水設計ではありません

●カメラのフィルム室ふたや電池室ふたを開ける前に、カメラに付いた水滴や汚れをよくふき取ってください。

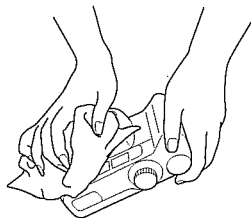
●フィルムや電池の出し入れは、水滴・砂・ホコリのかからない場所で、乾いた手で行なってください。

●電池に水滴が付いているときは、きれいにふき取ってください。

フィルム室ふた、電池室ふたの取り扱い上の注意

- フィルム室ふたや電池室ふたは、きっちりと閉じてください。ふたを閉じる際に、ふたの内側のパッキンやその周辺に水滴や砂が付いているときは、乾いた柔らかい布で取り除いてください。わずかでも水滴・砂・汚れ・髪の毛等が付いていると、水漏れの原因になります。
- フィルム室ふたや電池室ふた内側のパッキンは常にきれいにしておいてください。また、パッキンは引っ張ったりはずしたりしないでください。切れたり、伸びたり、キズができていると、水漏れの恐れがありますので、当社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。

使用後の清掃について

海辺で使った後などは、カメラに砂・塩分等の汚れが付いていますので、カメラを真水に浸して汚れを落としてください。

- 塩分がパッキンに残っていると、パッキンを傷めます。
- レンズの前の防水ガラスの汚れは写真の写りを悪くし、測距窓の汚れは誤測距の原因となります。

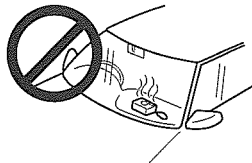
- カメラを乾かすときはドライヤーなど使わず、柔らかい布でふき取ってください。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は-10～40℃です。

●直射日光下の車の中、熱い砂浜、プールサイドなど、極度の高温下にカメラを放置しないでください。

●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

●電池の性能は、低温下では低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池を用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。

フィルムの取り扱いについて

新システムのフィルムでは磁気情報を使用していますので、フィルムを磁石に近づけたり、強い磁界の発生しているところ(テレビ受像機やスピーカーの上など)に置かないでください。磁気情報が失われて、新システムの性能を十分に発揮できなくなることがあります。

その他の注意

電池容量が十分にあるのにカメラが動かなくなったときは、電池を一度取り出し、数分待ってから電池を入れ直してください。それでも正常動作に戻らない場合、また何度も繰り返して同じ状態になるときは、お近くの当社サービスセンターまたはサービスステーションにお問い合わせください。

お買い上げありがとうございます

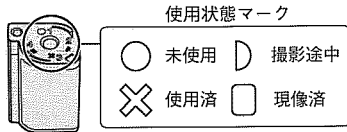
このカメラは、世界で初めてズーム機能を搭載した、水中撮影が可能なAPS(アドバンストフォトシステム、以下新システム)コンパクトカメラです。もちろん水中だけでなく、一般的なアウトドアライフでも大いにご活用いただけます。

※このカメラの機能を十分に活用していただくために、この使用説明書をご使用前によくお読みください。またお読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。

新システムの特長

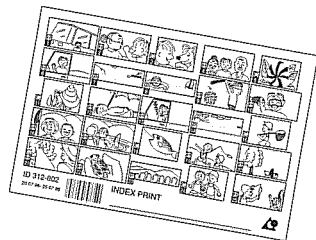
フィルム装填が簡単になりました

新システムのカメラでは「IX240カートリッジフィルム」を使用します。この新フィルムはフィルム部分がすべてカートリッジの中に入っていますから、フィルム室にポンと入れるだけの簡単操作でカメラに装填できます。

また、使用状態マークでフィルムの使用状態を一目で見分けることができます。このカメラでは、○のマークのフィルムがご使用になれます。

3種類のプリントタイプが選べます

新システムのカメラでは、プリントのタイプをCタイプ、Hタイプ、Pタイプの３つから選べます。また、１本のフィルムの中で自由に切り替えることができます。

現像・焼き増しも簡単です

お店に現像・プリントを依頼されると、フィルムはカートリッジに入った状態で、インデックスプリント（１本のフィルム内のすべての写真を、まとめて１枚にプリントしたもの）といっしょに返却されます。
このインデックスプリントを見れば、撮った写真を一目で確認でき、焼き増ししたいコマの指定も簡単にできます。

各部の名称

カメラボディ

*の付いたところは触らないでください。(　)内は参照ページです。

ファインダー接眼窓*
日付・時間印字 (41)／
セレクト（修正位置選択）ボタン
セルフタイマー (46)／
アジャスト（数値設定）ボタン
三脚ねじ穴
フィルム室開閉レバー (21, 39)
プリントタイプ
切り替えレバー (24)
アクセサリーシュー
電池室ふた (18)
フィルム室ふた

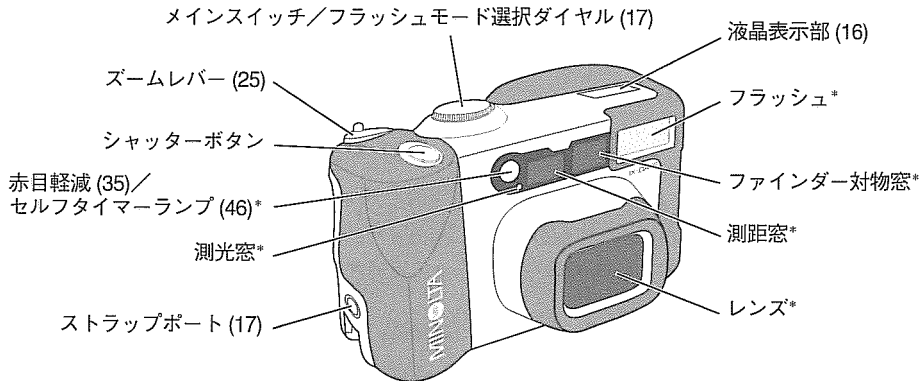
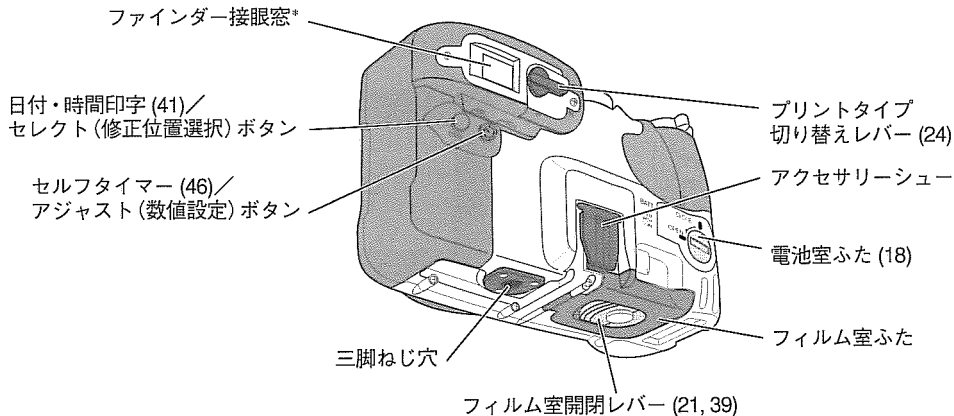
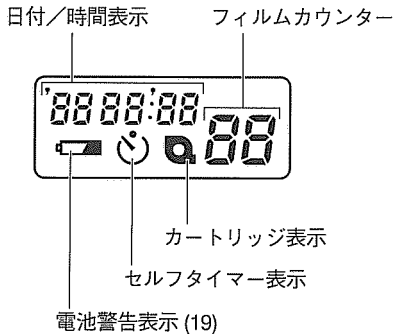
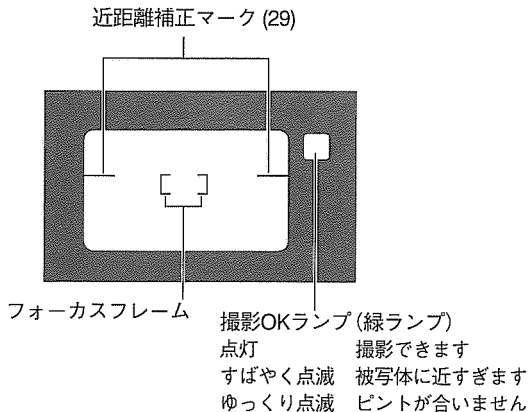
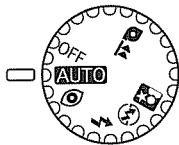
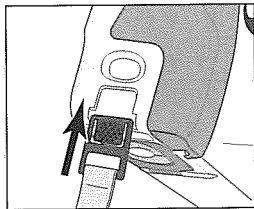
液晶表示部

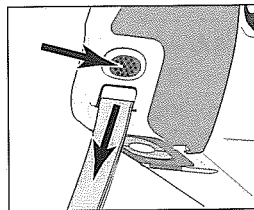
ファインダー表示部

近距離補正マーク (29)

フォーカスフレーム

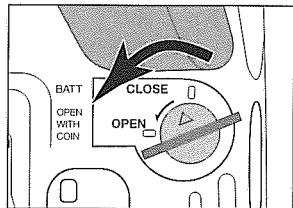
撮影OKランプ（緑ランプ）

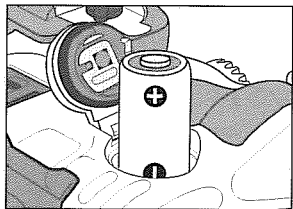
点灯	撮影できます
すばやく点滅	被写体に近すぎます
ゆっくり点滅	ピントが合いません

メインスイッチ／フラッシュモード選択ダイヤル

OFF	OFF（カメラの電源切）
AUTO	フラッシュ自動発光
	赤目軽減自動発光
	強制発光
	発光禁止
	夜景ポートレート
	途中巻き戻し

取り付け方

カチッと音がするまで差し込みます。

取り外し方

ストラップの図の部分を押して、引き抜きます。

電池を入れます

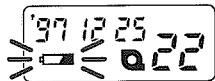
3Vリチウム電池CR2を１個使用します。お買い上げの際には電池はすでに入っています。

1. 電池室ふたの溝に硬貨を差し込み、「OEPN」の位置まで回します。

●ふたが少し浮き上がります。

2. ふたを開け、電池室内の＋－表示にしたがって電池を入れます。

3. ふたを閉じ、硬貨を溝に差し込んで、ふたをしっかり押しながら、「CLOSE」の位置まできっちり回します。

●電池を交換した後は、日付・時間が変わっていることがあります。変わっている場合は設定し直してください(42ページ参照)。

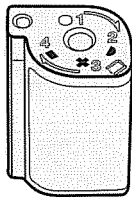
●カメラの汚れ・水分をふき取ってから、水滴・砂・ホコリのかからない場所で操作してください。
●電池室ふたのパッキンやその周囲に水滴や砂がついているときは、きれいに取り除いてください。
●電池に水滴や汚れがついているときはきれいにふき取ってください。

電池容量の確認

撮影の途中で が点滅したら、新しい電池をご用意ください。(このままでもしばらくは撮影できます。)

●何も表示されないときは、まず電池の向きが正しいかどうかを確認してください。

●このカメラは、電源を入れてから約8分以上何も操作しないときは、節電のため自動的に電源が切れますが、シャッターボタンを軽く押すとすぐに撮影できる状態になります。

このカメラでは、新システムのフィルム（IX240カートリッジフィルム）を使用します。

使用状態マーク

新システムのフィルムは、使用状態を4つのマークでお知らせします。4つのうち白くなっているマークが、そのフィルムの状態を示します。

○　新品のフィルムです。

◗　途中まで撮影済みのフィルムです。

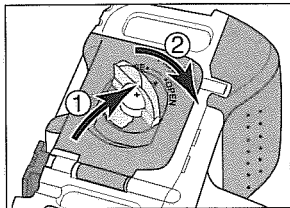
✕　全コマ撮影済みのフィルムです。

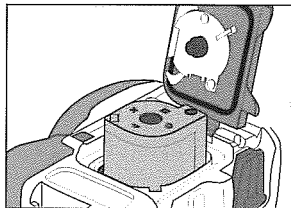
□　現像済みのフィルムです。

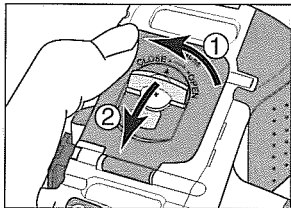
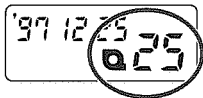
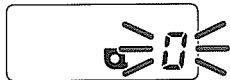
このカメラでは、使用状態マークが○のフィルムをお使いください。◗のマークは、カートリッジ途中交換機能を備えたカメラで、途中まで撮影したフィルムにのみ現われます。このカメラでは◗のマークは使えません。

フィルムを入れる前に

- カメラの汚れ・水分をふき取ってから、水・砂・ホコリのかからない場所で操作してください。
- フィルム室ふたのパッキンやその周囲に水滴や砂などがついているときは、きれいに取り除いてください。

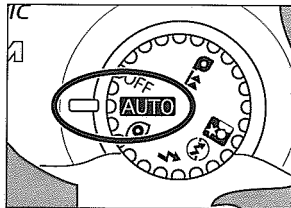
フィルムの入れ方

1. カメラを逆向けにしてフィルム室開放レバーを上げ、「OPEN」の位置まで回します。

（次ページに続く）

2. フィルム室のふたを開け、フィルムを使用状態マークが上になるようにして入れます。

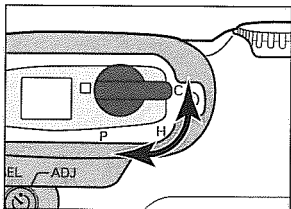
●このカメラは気密性が高いため、フィルム室のふたが開けにくいことがあります。このような場合は、電池室ふたを開けてからフィルム室ふたを開けてください。

3. フィルム室のふたを閉めてしっかり押さえながら、レバーを「CLOSE」の位置まで回し、元に戻します。

●「CLOSE」の位置まで回すとフィルムが1コマ目まで巻き上げられ、液晶表示部にフィルムの残り枚数が表示されます。

●使用状態マークがD、✕、□のフィルムをカメラに入れると、液晶表示部の0が点滅し、そのフィルムが使えないことをお知らせします（誤装填防止機能）。フィルムを取り出し、○のフィルムを入れてください。

●使用状態マークがD（途中まで撮影済み）または□（現像済み）のフィルムを一度このカメラに入れて取り出すと、マークは✕に変わり、どのカメラでも全コマ撮影済みのフィルムとして扱われます。

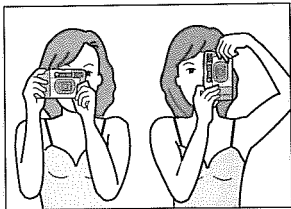
●ごくまれに、1コマ目までの巻き上げが正しく行なわれない場合があります。このときは、液晶表示部の0が点滅してお知らせします。フィルムをいったん取り出し、入れ直してください。それでも正常に動かないときは、当社サービスセンターまたはサービスステーションにご連絡ください。

全自動で撮ってみましょう

1. メインスイッチをAUTOの位置まで回します。

●カメラの電源が入ります。

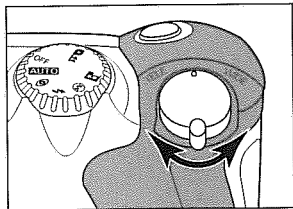
●AUTOの位置では、フラッシュは必要時には自動的に発光します。

2. プリントタイプ(C/H/P)を選びます。

●選んだプリントタイプに応じて、ファインダーが切り替わります。

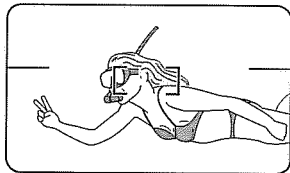
●各プリントタイプの標準的な仕上がりサイズは、Cタイプが89x127mm、Hタイプが89x158mm、Pタイプが89x254mmです。

カメラを構えるときは

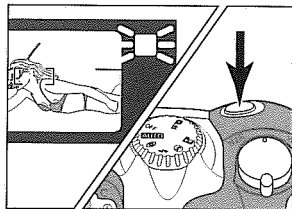
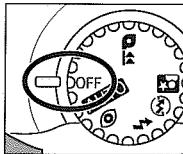
●写真がぶれないように、脇を閉め、両手でしっかりと構えてください。

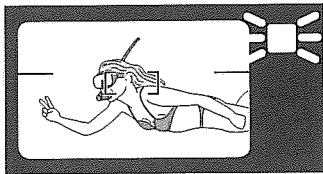
●レンズやフラッシュ、測距窓などカメラの前面に、指や髪の毛、ストラップがかからないようにしてください。

●縦位置で撮影するときは、フラッシュを上にしてください。

3. ファインダーをのぞき、ズームレバーを押して、撮影する範囲を決めます。

●WIDE側にするとより広い範囲のものが写り、TELE側にするとより大きく写ります。

(次ページに続く)

4. ピントを合わせたいものに［　］を重ねて、シャッターボタンを半押しします。

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書では、そこまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

5. ファインダー横の緑色の撮影OKランプが点灯したら、そのままシャッターボタンを押し込みます。

●撮影後は、メインスイッチをOFFにしてください。

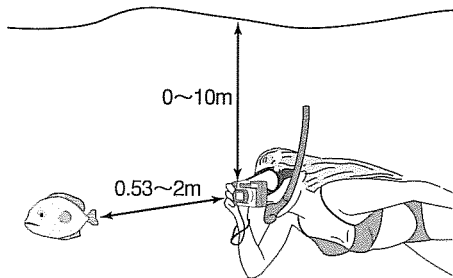
撮影OKランプ（緑ランプ）

●緑色の撮影OKランプが点灯しないときは、フラッシュが充電中です。シャッターは切れません。数秒待ってからもう一度シャッターボタンを押してください。

●このカメラでは、40cmより遠くのものにピントが合います（水中では53cm）。撮影OKランプがすばやく点滅する場合は、撮影するものが近すぎます。シャッターは切れません。

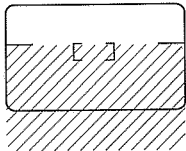
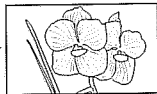
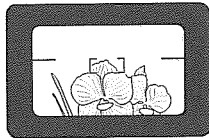
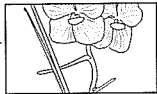
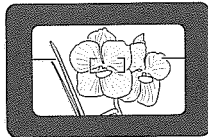
●撮影OKランプがゆっくり点滅する場合は、シャッターは切れますが、ピントの合わない写真になることがあります。

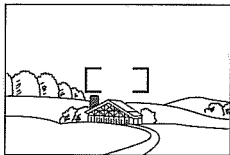
水中撮影

このカメラでは、水深約10mまでの水中撮影が可能です。
水中では、水の透明度によりフラッシュ到達距離が変わります。また、写真全体が青っぽく写ります。撮りたいものから2m以内の距離で、フラッシュを発光させて撮影することをおすすめします。

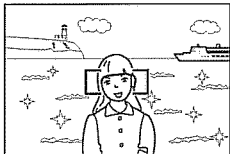
●水中撮影の後続けて撮影するときは、レンズ前面の水滴を拭いてください。水滴で撮影したものがぼけることがあります。

近くのものを撮るときは

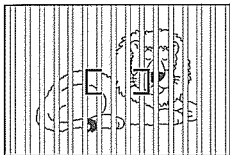
このカメラでは、40cmより遠くのものにピントが合います（水中では53cm）。

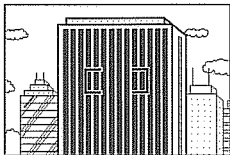
- これらの距離以内に近づくと、緑色の撮影OKランプがすばやく点滅してお知らせします。シャッターは切れません。
- 極端に近づきすぎると、ランプがゆっくり点滅してシャッターが切れることがありますが、ピントは合いません。

1m未満の距離にあるものを撮るときは、近距離補正マークの内側（Hタイプの場合、図の斜線の範囲）が写ります。ピントを合わせたいものをフォーカスフレームに入れてシャッターボタンを半押しした後、カメラを少し上にずらし、撮りたいものが斜線の範囲内におさまるようにして撮影してください（32ページ参照）。

オートフォーカスの苦手な被写体

このカメラでは、被写体のコントラスト（明暗差）を利用してピント合わせをしているため、以下のような被写体にはピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にあるピントの合いやすいものにピントを一時的に固定させてから、構図を変えてください（32ページ参照）。

青空などコントラストのないものや、太陽のように明るい光源や車のボディ・水面など反射しているもの

→撮影OKランプがゆっくりと点滅して、オートフォーカスが働かないことをお知らせします。この場合、以下の距離にピントが固定されています。

● フラッシュが発光する場合
　—2.3〜2.7m（焦点距離による）
● フラッシュが発光しない場合
　—無限遠（非常に遠く）

明るい光源のすぐ近くにあるもの

→撮影OKランプが点灯しますが、ピントが合わないことがあります。

遠くと近くに共存するもの

→撮影OKランプが点灯しますが、遠いほうか近いほうかのどちらかにピントの合った写真になります。

繰り返しパターンの連続するもの

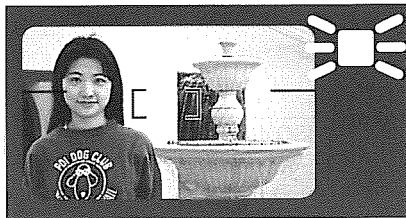
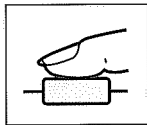
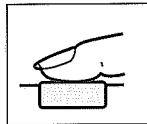
→撮影OKランプがすばやく点滅し、シャッターは切れません。

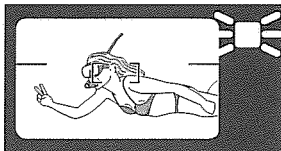
撮りたいものが画面中央にないときは

撮りたいもの（ピントを合わせたいもの）が画面の中央にないときは、そのまま撮影すると、左のように背景にピントのあった写真になってしまいます。こんなときは、撮りたいものに一時的にピントを固定して撮影します。
この方法は、オートフォーカスの苦手な被写体を撮影したいときにも使えます。

1. ピントを合わせたいものに［　］を重ねます。

2. そのままの状態でシャッターボタンを半押しします。

●緑ランプが点灯し、[　]を重ねたものにピントが固定されます。

3. シャッターボタンを半押ししたまま撮りたい構図に変え、シャッターボタンをそのまま押し込みます。

フラッシュ撮影（撮影OKランプ／フラッシュ光の届く距離）

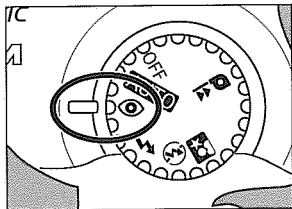
撮影OKランプ（緑ランプ）

フラッシュが発光する場合は、シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横の緑色の撮影OKランプが点灯します。点灯しない場合はフラッシュが充電中です。数秒待ってからもう一度撮影してください。

フラッシュ光の届く距離

フラッシュ光の届く範囲は、焦点距離やフィルムの感度によって異なります。フラッシュ撮影時には、撮りたいものをこの範囲内に入れて撮影してください。

	ISO 100	ISO 200	ISO 400
広角側（30mm）	0.55～3.6m	0.55～5.1m	0.73～7.2m
望遠側（50mm）	0.4～2.3m	0.4～3.2m	0.45～4.5m

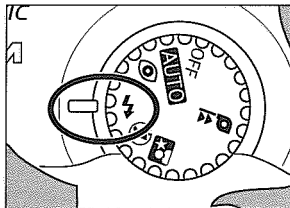
フラッシュで目が赤く写らないようにするには（赤目軽減自動発光）

シャッターが切れる前に、赤目軽減ランプが発光して、暗いところで目が赤く写るのを目立たなくします。

1. フラッシュモード選択ダイヤルを◎の位置まで回します。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

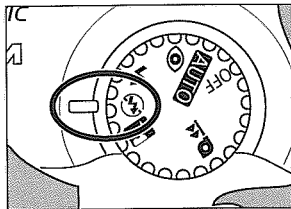
● シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまでの間、カメラを動かしたり被写体が動いたりしないよう注意してください。

逆光の時や蛍光灯のついた室内で撮影するときは（強制発光）

逆光のときや、明るい屋外で人物の顔に帽子の影ができているとき、蛍光灯のついた屋内で撮影するときなど、フラッシュを発光させるとより美しい写真が撮れます。

1. フラッシュモード選択ダイヤルを ϟ の位置まで回します。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

フラッシュを発光させたくないときや夜景を撮りたいときは（発光禁止）

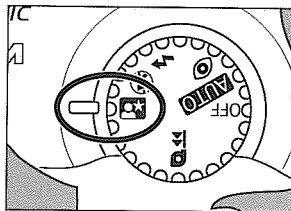
美術館や博物館などフラッシュの使用が禁止されている場所で撮影するときや、夜景撮影の時は、この方法で撮影します。

1. フラッシュモード選択ダイヤルを㊈の位置まで回します。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

●暗いところではシャッター速度が遅くなり、写真がぶれやすくなります。三脚などでカメラをしっかり固定してください。

●夜景を背景に人物撮影をする場合は、次の夜景ポートレートで撮影してください。

夜景を背景に人物撮影するときは（夜景ポートレート）

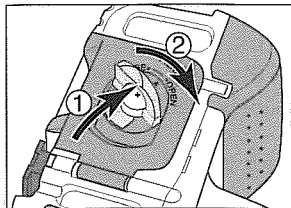
夜景ポートレートで撮影すると、シャッター速度が遅くなり、フラッシュも発光しますので、人物も背景の夜景も両方写せます。

1. フラッシュモード選択ダイヤルをの位置まで回します。

2. 構図を決め、そのままシャッターボタンを押して撮影します。

- シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などに固定してください。また、写される人にも声をかけて、動かないように気を付けてもらうことをおすすめします。
- 人物のいない夜景を撮影するときは、フラッシュ発光禁止で撮影してください。

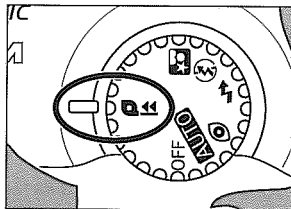
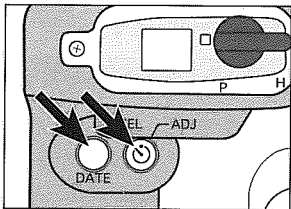
フィルムを取り出します

1. 最後のコマまで撮り終えると、フィルムは自動的に巻き戻されます。

- 巻き戻し中は、フィルムカウンターの数字が順々に減っていきます。
- 液晶表示部のフィルムカウンターの0が点灯し、が点滅したら、巻き戻しは終了です。
- フィルムカウンター内に0が現れるまでは、フィルム室のふたを開けないでください。

2. フィルム室開放レバーを上げ、ふたを開けてフィルムを取り出します。

- 取り出したフィルムには⊗のマークが表示されています。

> - カメラの汚れ・水分をふき取ってから、水・砂・ホコリのかからない場所で操作してください。
> - フィルム室ふたのパッキンやその周囲に水滴や砂などがついているときは、乾いた布で取り除いてください。

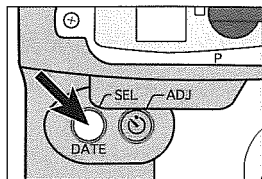
フィルムを途中で巻き戻すには

1. メインスイッチ／フラッシュモード選択ダイヤルを の位置まで回します。

2. 日付・時間印字ボタンとセルフタイマーボタンを同時に押します。

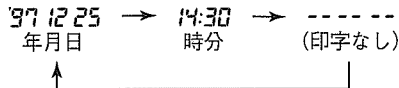
●フィルムの巻き戻しが始まります。

3. が点滅したら、フィルム室開放レバーを上げ、ふたを開けてフィルムを取り出します。

日付を入れましょう（日付・時間の印字）

日付や時間をプリントの表裏両方に印字することができます。

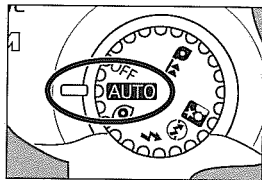
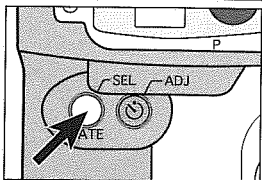
●お店によっては表面に印字できないこともあります。詳しくはお店の方にお問い合わせください。

1. 日付・時間印字ボタンを押して、印字される内容を選びます。

●日付・時間印字ボタンを押すごとに、以下のように表示が切り替わります。

2. 印字したい表示を選んだ状態で、シャッターボタンを押して撮影します。

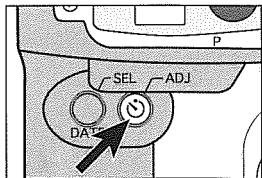
●再度日付・時間印字ボタンを押して変更するまで、同じものが印字され続けます。

●印字なしを選んだ場合でも、プリント裏面には年月日時分が印字されます。

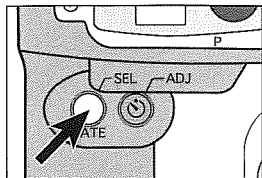
日付を入れましょう（日付・時間の修正）

このカメラには2030年までの日付が記憶されていますので、撮影のたびに数値を設定する必要はありません。電池を交換した後など数値の修正が必要な場合は、以下の手順で行なってください。

1. メインスイッチをAUTO（または他のフラッシュモード）の位置まで回し、撮影できる状態にします。

2. セレクト（修正位置選択）ボタンを数秒間押し続けます。

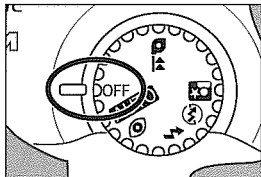
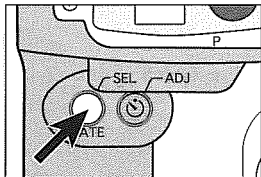
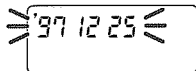
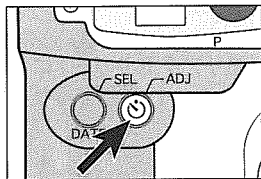
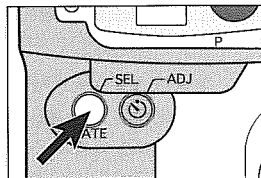
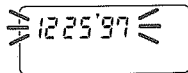
●「年」が点滅をはじめます。

●その後は、セレクトボタンを押すごとに、年→月→日→時→分の順序で点滅箇所が変わります。

3. アジャスト(数値設定) ボタンを押して、点滅している数値を訂正します。

●押し続けると、点滅箇所の数値が早送りされます。

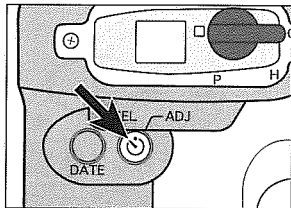
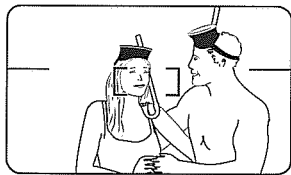
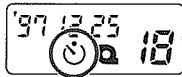
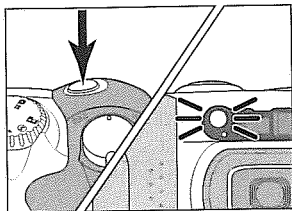
4. 他にも修正箇所があるときは、セレクトボタンで修正個所を点滅させ、アジャストボタンで修正します。

5. 修正が終わったら、点滅している数字がなくなるまでセレクトボタンを何回か押します。

日付を入れましょう（「年月日」の並び替え）

「年月日」の順序を変えることができます。

1. メインスイッチをOFFの位置まで回します。

2. セレクトボタンを数秒間押し続けます。

●「年月日」すべてが点滅をはじめます。

3. アジャスト（数値設定）ボタンを押して、「月日年」または「日月年」を選びます。

4. 希望の順序を表示した状態で、セレクトボタンを押します。

●選んだ順序が表示された後、表示が消えて電源が切れます。

セルフタイマー撮影

撮影者も写真に入ることができますので、全員での記念写真などに便利です。

1. カメラを三脚またはハンディ三脚(別売りアクセサリー)に固定してから、セルフタイマーボタンを押して、ⓢマークを点灯させます。

2. 撮りたいものに[　]を重ねます。

3. シャッターボタンを押します。

- カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し始め、約10秒後にシャッターが切れます。

- カメラの正面に立ってシャッターボタンを押さないでください。レンズがさえぎられてピント合わせができなくなります.
- 撮影後は通常撮影に戻ります。
- セルフタイマー撮影を中止したいときは、もう一度セルフタイマーボタンを押すか、メインスイッチをOFFにしてください。

プリント時のサービスについて

図のマークを掲示しているお店に現像・プリントを依頼されますと、以下のサービスを受けることができます。

①プリントタイプ切り替え (C/H/P) に対応します。
撮影時にお客様の設定されたプリントタイプでプリントします。

②日付や時間を裏面に印字します。
日付や時間を、各々のプリントの裏面に印字してお返しします。

③プリント画像を自動で補正します。
フィルムに自動的に記録される磁気情報をもとにして、最適な画像が得られるようプリント時に自動で補正します。

④フィルムをカートリッジ内に巻き取ってお返しします。

現像済みのフィルムは、カートリッジ内に巻き取られた状態でお客様にお返しします。

※現像済みフィルムのカートリッジの使用状態マークは□になります。

⑤インデックスプリントをお渡しします。

1本のフィルムに記録されているすべての写真を、まとめて1枚にプリントし、カートリッジと一緒にお返しします。

上の5つのサービスは、それぞれお客様のご要望に応じて変更することができます。詳しくは、お店の方にお問い合わせください。

焼き増しを注文するときにプリントタイプを変更できます

このカメラでは、どのプリントタイプで撮影しても、フィルム上には常にHタイプで像が記録されています。したがって、お店で焼き増しを注文する際に、撮影したときと違うプリントタイプを指定することもできます。たとえば、Cタイプで撮影したものでも、HタイプやPタイプでプリントすることができます。

日常のお手入れ

手入れのしかた

- カメラボディを清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- 海辺で使用した後は、真水に浸して洗い、乾いた柔らかい布でよくふきとってください。
- 測距窓が汚れているとオートフォーカスが正しく動作しないことがあります。乾いた柔らかい布で測距窓の汚れをふき取ってください。
- レンズ面を清掃するときは、レンズブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーをしみ込ませ、軽くふいてください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。

- 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切る（フィルムを入れないでシャッターを切る）ようにしてください。また、使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。
- 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。

万一、不具合が生じたときは

- お問い合わせの際に、カメラの機種名と現象をお伝え下さい。
- 故障の際は、フィルムが取り出せないことがあります。無理に取り出そうとせずに、フィルムを入れたまま、カメラをお買い上げ店またはお近くの弊社サービスセンター・サービスステーションにお持ちください。フィルムを取り出した後で不具合が分かった場合は、そのフィルムも一緒にお持ちください。
- 取り扱い上の不注意による故障品の修理については、保証期間内でも有償となります。また、損傷の程度によっては修理不可能となる場合もありますので、ご了承ください。

主な性能

カメラタイプ：	IX240レンズシャッターカメラ
レンズ：	ミノルタレンズ30-50mm F4-6.4 （35mmフィルム換算で約38-63mm相当）
最大撮影倍率：	約1/7倍
露出制御範囲（ISO200）：	30mm: EV6.0～16.0　50mm: EV7.4～16.0
ファインダー倍率：	0.44～0.67倍
フィルム感度：	ISO 100～3200
視野率：	85%（3mの被写体に対して）
フィルム撮影可能本数：	約10本（25枚撮りフィルムでフラッシュ使用率50%として）
電源：	3Vリチウム電池CR2×1本
大きさ：	128（幅）×74.5（高さ）×66（奥行）mm
重さ：	340g（電池別）

●本書に記載の性能は当社試験条件によります。

●本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

CE

ボディ底面のこのマーク（CEマーク）は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語の Conformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

使い方に関する不明な点は、下記住所のフォトアドバイザーがお答えいたします。

サービスセンター

新　宿　〒160-0022　東京都新宿区新宿3-17-5（カワセビル3階）
TEL（03）3356-6281㈹

大　阪　〒530-0001　大阪市北区梅田1-11（大阪駅前第4ビル7階）
TEL（06）6341-6501㈹

サービスステーション

札　幌　〒060-0807　札幌市北区北7条西1-1-5（丸増ビルNo.18）
TEL（011）737-1212㈹

仙　台　〒980-0802　仙台市青葉区二日町14-15
（アミ・グランデ二日町ビル3階）
TEL（022）261-3431㈹

横　浜　〒231-0015　横浜市中区尾上町4-47（大和横浜ビル3階）
TEL（045）663-1445㈹

静　岡　〒420-0857　静岡市御幸町5-9（静岡FSビル7階）
TEL（054）251-7301㈹

名古屋　〒460-0002　名古屋市中区丸の内1-4-12
（アレックスビル4階）
TEL（052）239-1251㈹

広　島　〒730-0041　広島市中区小町3-25（住金物産広島ビル1階）
TEL（082）247-3978㈹

高　松　〒760-0078　高松市今里町1-17-20
TEL（087）835-5568㈹

福　岡　〒812-0013　福岡市博多区博多駅東3-4-10
（コマパビル1階）
TEL（092）441-6121㈹

営業時間　新宿・大阪　10:00～18:00（日曜・祝日定休）
その他　9:00～17:30（土曜・日曜・祝日定休）

9223-2208-71　P-B811